

あつぎ郷土博物館NEWS10月号

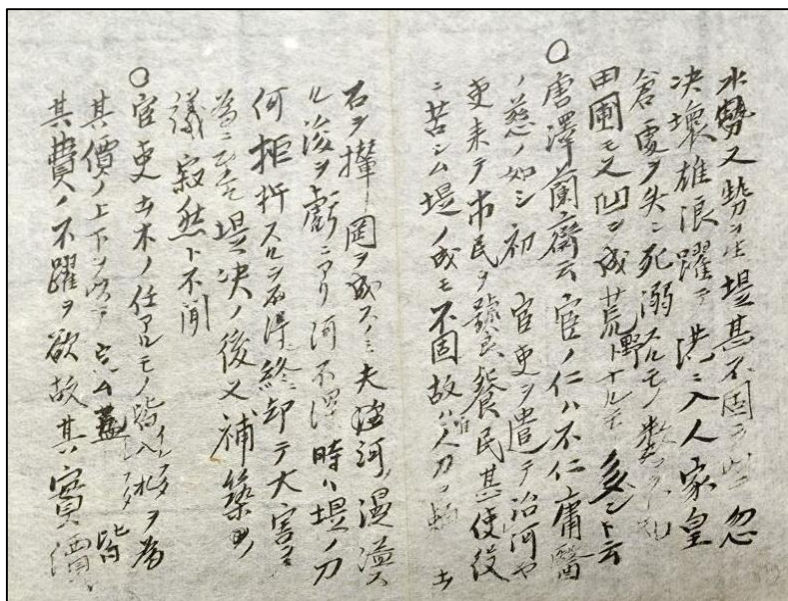
好評
開催中

企画展「記録されたあつぎの災害」②

蘭斎は問う、水害は天災？人災？

あつぎ郷土博物館では、10月4日(土)から11月30日(日)まで、災害をテーマにした企画展「記録されたあつぎの災害—地震・神鳴り・禍事・やまひ—」を開催中です。

厚木市域内には、相模川や中津川、小鮎川、玉川など大小さまざまな河川が流れています。天保2年(1831)に厚木宿を訪れた渡辺崋山は、その



の繁栄を「都(江戸)と異ならず」と評し、その資源は相模川の水運にあると記しています。しかし、恵みをもたらすその一方で、相模川を中心とした中小河川の氾濫による洪水の被害も甚大であると記しています。崋山が厚木を訪れる「四五十年前」の天明年間(1781~1788)の洪水では多くの人家が流され、文政の初め(1820年代)に烏山藩の主導で堤が造られたものの翌年の大雨により決壊し、地域住民の新しい堤への信頼感も災いして、想定を超える多数の溺死者と人家、田畑の喪失を招くこととなりました。

厚木宿の医師、唐澤蘭斎は烏山藩による治水工事に手厳しい批判を述べており、その言葉を崋山は『遊相日記』の中に書き留めています。水害は、台風や豪雨などの気象現象を原因とする天災と、河川管理の不備などの人間の活動を原因とする人災、両方の側面を持つ災害です。文政の水害では、藩役人と請負

業者との癒着、ただ土石を積んだだけで川底を浚うことをしない手抜き工事などが蘭斎によって指摘されており、この水害は天災というよりも人災の側面が強かったようです。

- 会 期：11月30日(日)まで
- 入館料：無 料
- 講演会、関連行事参加費：無料

あつぎ郷土博物館 10月の予定

日	曜日	行 事 内 容	講師等	時 間
企画展「記録されたあつぎの災害」 11月30日まで開催				
4	土	ギャラリー・トーク 記録されたあつぎの災害①	当館学芸員	13:30 ～14:00
5	日	秋のはがき絵教室@岸邸	榊原勇城氏 (水彩画家)	13:30 ～15:30
9	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読 会 会員	13:00 ～16:00
16	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読 会 会員	13:00 ～16:00
18	土	体験講座「南海トラフを体験する」<参加申込制>	厚木市 危機管理課	13:30 ～15:30
23	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読 会 会員	13:00 ～16:00
25	土	ギャラリー・トーク 記録されたあつぎの災害②	当館学芸員	13:30～ 14:00
27	月	休 館 日		

コラム
毛利氏

毛利氏とあつぎの関係とは？③

宝治合戦では、毛利季光の一族は三浦方に味方し、源頼朝が建てた法華堂で「自害」しましたが、季光の四男経光だけは越後国にいて難を逃れました。毛利荘は没収されましたが、越後国佐橋荘（現在の新潟県柏崎市）と安芸国吉田荘の地頭職は安堵されたことで、経光は佐橋荘に移り住みました。

毛利氏は、南北朝時代に佐橋荘から、安芸国吉田荘へと再度移りました。その後、毛利元就（図では大江元就）が、守護大名の大内氏や尼子氏を倒し、国人領主から、中国地方全域を領地とする戦国大名へとの上がっていきました。



- あつぎ郷土博物館 開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 毎月最終月曜日 年末年始(12/29～1/3)
- 古民家岸邸 開館時間 午前10時から午後3時まで(入館は午後2時30分まで)
休 館 日 月曜日と火曜日(祝日の場合は翌平日) 12/25～1/3



(申込み・問合せ) あつぎ郷土博物館
〒243-0206 厚木市下川入 1 3 6 6 - 4 電話 046-225-2515
Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp FAX 046-246-3005